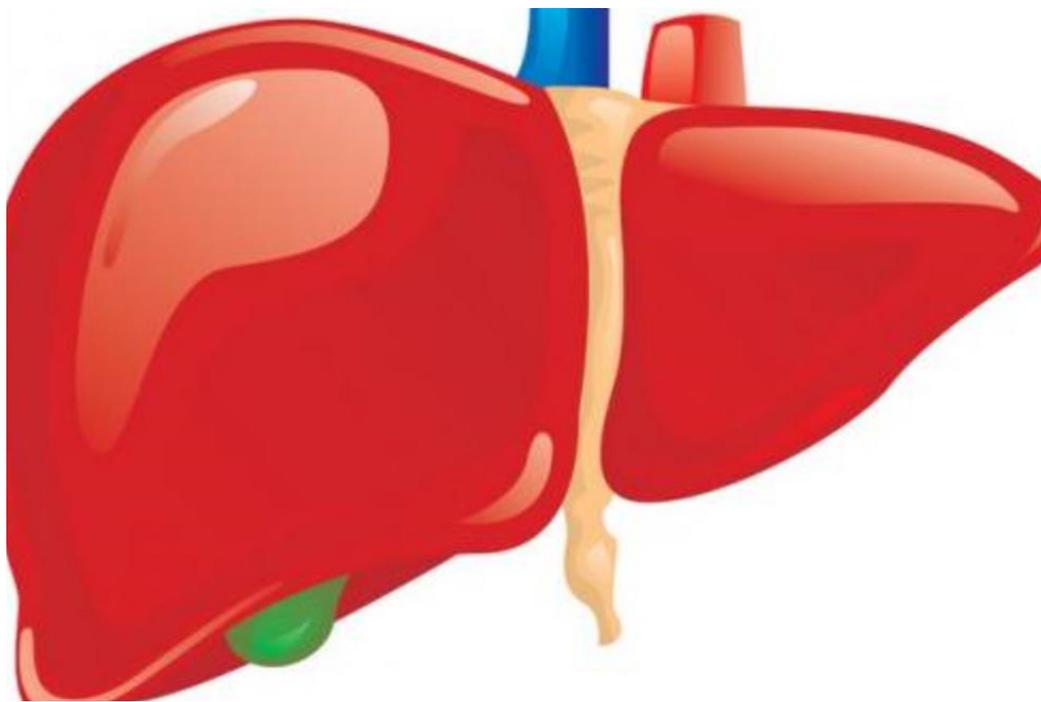


C型肝炎治療後の肝発がん予防 に亜鉛

亜鉛は肝臓におけるさまざまな酵素の活性に必須ですが、その血中濃度は肝疾患の進行に伴い徐々に低下します。



C型肝炎患者ではインターフェロン（IFN）フリー直接作用型抗ウイルス薬（DAA）治療により高いウイルス学的著効（SVR）達成率が得られるようになりましたが、大阪労災病院の法水淳氏は、IFNフリーDAA投与によりSVRが得られた後の肝発がん和亜鉛の影響について検討。「血中亜鉛濃度が肝発がんに関連しており、亜鉛製剤の投与がSVR達成後の発がんを抑制できる可能性が示された」と第54回日本肝臓学会で報告しました。



報告では、SVR後の肝発がんに関しては、亜鉛低値群では1年発がん率が0.59%、2年発がん率が9.8%でありましたが、亜鉛高値群（投与群）では、いずれも0%でありました。

